

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2020. 9  
No.325

### イナテックをつくり変える

#### (コロナショックサバイバルに学ぶ)

コロナショックで世界が凍りつきました。世界が止まりました。

今回は、この激震ともいえる危機的な環境の中で気づいたこと、生き残りをかけての戦略、そして決意したことをお伝えします。

#### 1 健全な危機意識

今回のコロナショックではつきりしたのが、日本のデジタル化が先進諸国の中で一周遅れの最下位であったということです。日本は品質が良く、適切な価格で商品を提供できる素晴らしい国だと思っていました。しかし今回のコロナ危機を乗り越えていくために必要な「大きく変わるこ

と(デジタル化)の遅れが露呈されました。非常に残念なことです。

次に、このコロナショックでEV・FCV・HV時代の到来が10年前倒しになったと思います。今まで多方面からの情報を集めてきた中で20年後の2040年が大きな変化点になると踏んでいましたが、今回のコロナショックを機に2030年にはEV・FCV・HVのシェアは50%とはいかないまでも、かなりなものになるであろうと実感しています。

来るべきEV・FCV・HVの時代になると構成部品がシンプルになり部品点数も減少します。コアなアッシーとモーターは大資本の会社が独占し、我々のような小資本の会社は太刀打ちできないのではないかと考えています。

また、新興国(ベトナム、インド、南米など)と同じ部品を作っているだけでは、いくらロボット化、自動化を進めたところで圧倒的に労務費の安い新興国にはかないません。

過去、日本がまだ給料が安く自動車を作り始めデミング博士の指導のもと品質管理を徹底的に学んだことで、ついには欧米の自動車メーカーを駆逐した歴史がありますが、次は日本が世界の新興国に追いつけられ同じ轍を踏むのです。もちろん大手ティア1の会社は生き

残られるのですが、我々ティア2の会社では同じ土俵では勝ち目がありません。

そして、このコロナショックが世界中に感染した現在、経済のあり方が激変しました。倒産している会社、商店、飲食店などまだ事実が捉えられていない状況です。アメリカでは失業者が2ケタ台と過去に類をみないほど現実が苦しんでおります。それが世界中で起きていることは当然景気回復には時間がかかると私は考えております。

それまでの間我々は生き残っていなければ次はないのです。世界経済はバラツキの大きな波の中で回復するしかありません。

先が見えない中、今やるべきことは、売上がミナムに下降した時でも営業利益を最低プラスマイナスゼロに出来る体制をいち早く構築しておくことです。その為には固定費の削減をはかり身軽にすることを最優先と考えております。(私は2024年くらいまでコロナショックは続くと考えます。はずれてくれればラッキーです。)

#### 2 イナテックの進みたい方向

現量産部品のA/Tについては、自動化・ロボット化を行うと同時に管理・間接業務のデジタル化を目指します。ぼちぼちやって行けば良し

と思っていました。そんな速度では死に体になると覚悟を決めました。

EV・FCV・HV化について、まずは大手資本金会社さんと競合しない、また協力会では唯一で大きな大物ギヤの小ロット部品(歯車・シャフト)をイナテックなりの多段取ラインを作り込み、汎用設備を有効に使い、お客様に貢献したいと考えています。

また、筋肉財務体質にするべく固定費削減計画としては、時間で支給する給与体制からJob型就業に少しずつ変え固定費の変動費化

を図るとともに、リモートワークやワーケーション等の時代に向け社員にとつて働きやすい職場づくりを目指してまいります。そして「高売上」体質から、小さくても「高利益率」体質のイナテックに変えます。

### 3 実現に向けて自分自身として

#### 今後すべきことの決意

もうコロナ前の社会には戻らないと覚悟を決め「とにかく高速でPDCAを回すこと」を実践

の第一とし、未完成でも構わないから面白いものはどんどんお客様(後工程)にぶつけてみる」と。そしてそこから出る問題も含めてどんどん次の手を打つ、とにかく意思決定も実行も速さが勝負と心得、イナテックを変えます。

既存事業(現A/I)を「深化」して収益力・競争力をより強固にする経営とイナテックの強み(加工点)を生かした新たな成長のチャンスを探し求め、両方が成り立つ経営を目指しこのコロナショックを乗り切る所存です。

八七

静中念慮澄徹、見心之眞體。閑中氣象從容、識心之眞機。淡中意趣冲夷、得心之眞味。觀心證道、無如此三者。

静かなところで考えが澄みとおつていけば、心のほんとうの姿が見える。ひまな時に気持がゆったりと落ち着いていけば、心のほんとうの働きがわかる。淡々として執着しない立場で、心ばせが深くおだやかでいれば、心のほんとうの味わいが悟れる。このように本心を観照し、眞実な正道を悟るには、この三つの方法が一番よい。

